

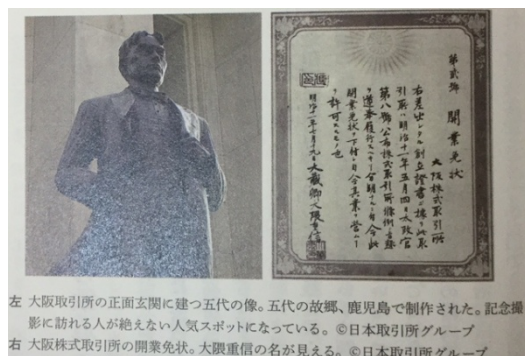
五代友厚と大阪

写真は北浜の「大阪取引所」。その前に五代友厚の大きな銅像が立っていることを、今回初めて知った。大阪市立中央図書館に並んでいた『証券市場誕生！』集英社、2017年に、五代友厚のことも書かれており抜粋して紹介したい。



明治初期、大阪証券取引所の前身である大阪株式取引所の設立に尽力、大阪商法会議所（現・大阪商工会議所）の初代会頭に就任するなど、当時勢いを失いかけていた商都大阪の活性化に大きく貢献したのが五代友厚（才助）でした。友厚の孫にあたる五代千賀の語りによると、友厚の地元薩摩での評価は一貫して「ポケモン（愛すべき冒険者、大胆者）」だったそうです。

明治2（1869）年、才助は退官し、大阪に戻ってきました。実業界に転じたのを機に、才助は「友厚」に改名します。実は、後に明治実業界の東西の両雄として「東の渋沢、西の五代」と並び称される渋沢よりも4年も早い下野でした。友厚はまず貨幣の地金を製造する金銀分析所を創設しました。ここで各藩から小判などを買い入れ、地金を鋳直したのです。



左 大阪取引所の正面玄関に建つ五代の像。五代の故郷、鹿児島で制作された。記念撮影に訪れる人が絶えない人気スポットになっている。©日本取引所グループ
右 大阪株式取引所の開業免状。大隈重信の名が見える。©日本取引所グループ

友厚は貿易、運輸、電信、印刷、紡績、製塩、製藍など多彩な事業を興しました。大阪商業講習所（現・大阪市立大学）を設立し、関西貿易社、阪堺鉄道（現・南海電気鉄道）、神戸棧橋の事業化にも参画、大阪経済の衰退を食い止める立役者となりました。

「株式取引所条例」の成立を受けて、自ら大阪証券取引所の前身である大阪株式取引所の発起人となり、明治11（1878）6月17日、大阪株式取引所が設立されました。さらに、商習慣が乱れていた大阪の商秩序を正常化に導こうと、友厚は大阪商法会議所（現・大阪商工会議所）を設立し、その初代会頭にも就任しています。

わが国経済界における大阪の地位を著しく向上させた、稀代のポケモンの人生は長くはありませんでした。明治18（1885）年に他界、享年49歳。大阪取引所前に聳える7.6メートルの五代友厚の銅像は、今日も商都・大阪を見守っています。

（2018年2月23日）